

<研究主題> 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた自立活動の取り組み」

<サブテーマ> 「自己課題の改善をめざして」

I 目的

- (1) Co-MaMe 等のアセスメントツールの活用を通し、生徒の実態を適切にとらえ分析、実践へつなげる。
- (2) 生徒の問題や課題を見つけ、見通しをもち主体的に学習に参加するための支援方法を探る。

II 研究内容

- (1) アセスメントから生徒の課題を明確にし、支援方法について共通理解を図る。
- (2) 授業実践及び振り返りを積み重ね、支援方法の改善を図る。

III 研究方法

- (1) 対象生徒を抽出し事例研究を行う。
- (2) アセスメントシート等を活用して、生徒の実態把握をする。
- (3) 授業の動画、行動記録をまとめ意見交換での資料とする。
- (4) 外部から講師を招き教科学習、自立活動等の支援方法の取り組みについて助言をいただく。

IV 研究計画

	活 動 内 容
4/24 (月)	令和5年度の研究について職員会議にて職員に周知(構想説明)
5/18 (木)	研究日①(アンケート記入)
6/14 (水)	研究日②(事例生徒決め)学部内で検討会
7/12 (水)	研究日③(サブテーマ決定)
7/18 (火)	全体研究会①
8/28 (月)	研究日④(アセスメントシート記入、整理用シート記入)
9/15 (金)	研究日⑤ Co-MaMe 校内研修会(オンラインを予定) 講師:独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 土屋 忠之 先生
10/18 (水)	研究日⑥(支援配慮のねらい、教育的ニーズ A3 等の話し合い どんな支援ができるか(具体的支援ができるか))
11/9 (木) 11/29 (水)	研究日⑦ 小学部・高等部事例検討会(オンライン) 助言者:宮城教育大学教職大学院 教授 植木田 潤 先生
12/8 (金)	研究日⑧(2回目のアセスメントシート記入、整理用シート記入)
1/16 (火)	研究日⑨(成果と課題)
2/9 (金)	研究日⑩(成果と課題)
2/28 (水)	全体研究会②(対面) 助言者:岩手大学教育学部 准教授 鈴木 恵太 先生
～3月下旬	来年度について方向性の検討

テーマ：授業への参加の姿勢の改善～立ち歩きを減らすために

1 はじめに

本生徒は、高等部の男子生徒である。ほとんど欠席なく毎日登校している。大きな集団には苦手意識が強いようであったが、頑張っで参加している。耐えられなくなり担任に申し出て退室することもある。普段の授業は、教科や授業内容にもよるが、教師とのやり取りを行う学習では集中して授業に取り組むことができる。クールダウンを取り入れ、学習内容も工夫して長い時間座っていることができるように現在取り組んでいるところである。

2 主訴

(1) 保護者の主訴

- ア できることを増やしていきたいが、気持ちが大きく崩れてしまうと立て直しが最優先になってしまい、やらせたいことが何もできなくなってしまう。
- イ クールダウン等せずに授業や行事に取り組めるようになってほしい。

(2) 担任の主訴

- ア 意欲的に授業に参加するが、集中力が続かず、立ち歩くことが多い。
- イ クールダウンを挟みながら、行事等に参加することができる。
- ウ クールダウンを減らし、授業時間内は座って参加できるようになってほしい。

3 児童生徒の実態

高等部生徒

(1) 生育歴の概要（省略）

(2) 性格や得意・苦手なこと

ほぼ休みなく登校しており、クールダウンを挟みながら授業に参加している。休み時間は友達と会話を楽しんだり、身体を動かして過ごしている。気になっていることや、特に注意を受けたことを思い出すとそのことに固執してしまい、授業中でも話題にしたり、気持ちが不安定になることがある。しかし、教師に話を聞いてもらうことで、その後は落ち着いて過ごすことができる。

(3) 自立活動6領域について

ア 健康の保持

- ①生活リズムが整っている
- ②食べ過ぎ、運動不足などところはあるが、身長や体重にかなり気を使っている。

イ 心理的な安定

- (ア) 注意されると過剰に反応してしまい、不穏になることがあるが、少しずつ注意を受け入れ

られることができるようになってきている。

- (イ) 気持ちが落ち着かない場合は、自らクールダウンの時間を教師と相談し、別室で気持ちを落ち着かせている。

ウ 人間関係の形成

- (ア) 親しい生徒や職員と積極的に関わりをもつが、一方的な接し方になりやすい。
- (イ) 相手によって対応は違うが、自分なりに考えながら関わっている。

エ 環境の把握

- (ア) 触覚（集団参加の状況など）
 - a 集団活動は苦手ではあるが、拒否することなく活動に取り組むことができている。
- (イ) 前庭感覚（姿勢の様子・平衡感覚・バランス感覚など）
- (ウ) 固有感覚（筋緊張・力のコントロール）
 - a 身体の動かし方や力の加減が難しい。
- (エ) 視覚
 - 特になし。
- (オ) 聴覚
 - 特になし。
- その他
 - a 周りが見えていない。

オ 身体の動き

- (ア) 手先の動き
 - a 自立しているが、器用ではない。（集中力がないことが原因）
 - b 紙を折る際、角を合わせて折ることはできるが、ずれて雑になることがある。
- (イ) 歩行
 - 特になし。
- (ウ) 食事動作
- (エ) 排泄の自立の有無
 - 特になし。
- (オ) 着脱衣動作
 - a 自立しているが、身なりを整えることが難しいときがある。

カ コミュニケーション

- (ア) 相手に対し配慮することができず、一方的になる場合が多い。
- (イ) 先生や先輩に対して、同年代のように話してしまうことがあるが、敬語を使って話そうとする意識はある。
- (ウ) 場に応じた、言葉選びが難しい。

(4) 指導仮説

時間と活動内容に変化やメリハリをつけた授業内容をする中で、50 分間座って授業に参加することができるようになってくるのではないだろうか。

(5) 指導目標

【長期目標】

(ア) 50分間座って授業に参加することができる。

【短期目標】

(イ) 座って授業に参加することを意識する。

(6) 具体的な指導・支援

ア 具体的な指導・支援の概要

(ア) 実施内容

a 各教科や作業学習で、授業内容の時間を区切り短い時間で集中できるように工夫した。

(イ) 実施時期

a 9月から開始した。

(ウ) 記録の方法

a 各教科で生徒の様子などを記述した。

イ 指導・支援中の様子①

(ア) 記録（文章・写真等）

a 自立活動

活動内容にもよるが、落ち着いて活動することができている。座学などでは、1時間座って受けることができている。但し5分、10分のクールダウンを入れ、動くことで精神的安定をはかっている。

b 国語

少しずつ席に着いている時間が長くなってきている。柔らかい表現を心掛け、時折、オーバーに褒めながら進めると、学習内容にもよるが指示を聞いて意欲的に取り組んでいる。

c 数学

基本的な四則計算は身に付いている。授業内でプリントや教科書を使用した学習、タブレットを使用した学習、のように時間ごとに取り入れることで1時間の学習に参加することができるようになってきた。

d 社会

社会の授業では、生徒の身近な内容から、本時の授業へとつなげるための発問と、生徒の発言とのやりとりの時間を多く設けている。また、教科書を音読する時間、ノートをとる時間などを多く設け、待っている時間や、説明を聞くだけの時間を少なくしている。DVD等の視覚教材を使い、学習に変化とメリハリをつけることを心がけている。退室やクールダウンを申し出ることもなく、学習態度は概ね良好であり、テスト結果もおおむね良好といえる。

e 音楽

学習の流れとしては、鑑賞、歌唱、打楽器演習で活動を行っている。

歌唱は最初、歌詞・音量を彼なりに頑張っていて好感がもてる。しかし、歌唱だけで授業を進めることが難しい。ピアノに合わせて、太鼓を上手にたたくことができる。概ね授業の途中で、退出することもなく、楽しく授業をうけている。

f 体育

苦手な学習はあるものの、教師や周囲からの励ましにより、一通りの活動に参加することができている。短時間の説明や指示を聞くことはできるが、理解して活動することが難しかったり、すぐ行動してしまい周囲への配慮が欠けたり、自身の安全を守る動きができず、危険が生じることが多々ある。

g 美術

職員との会話を楽しみながら、意欲的に取り組んでいる。話しながらも手は動かしている。時間いっぱい取り組むことは難しい。

h 作業学習

自分から「休憩したいです」と訴え休憩することがある。時間になると自分から戻ってくる。時間前に戻ってくることもある。作業継続時間は20分くらい。話をしながらであれば30分くらいはできる。

ウ 指導・支援のまとめ①（ケース検討会以前の実践について）

（ア）生徒の変容

- a 立ち歩きがあり、時間いっぱい取り組むことが難しかった。
- b クールダウンをしながらではあるが最後まで授業に参加しなければならないという気持ちが芽生え頑張っている姿も見られた。

（イ）成果

- a 5分、10分のクールダウンを取り入れながら、授業に参加することができた。
- b 興味のある学習内容を取り入れることで、長い時間授業に取り組めるようになってきている。
- c 担任や学年の職員に話を聞いてもらい、クールダウンも取り入れながら全体学習にも参加できた。

（ウ）課題

- a 50分の授業の中で、短い時間での学習内容を繰り返す等の工夫を行う。
- b 話す時には、短くわかりやすい言葉で伝える。

エ ケース検討会（講師：宮城教育大学 植木田 潤 教授）

（ア）助言内容

- a 能力的には厳しいが、頑張っている印象である。このまま引き伸ばすと良いかと思う。
- b 特性が強いので、座って話を聞くのは難しい。立ったまま聞いていられるのであればそれでもよいのではないか。大切なのは身につくことである。
- c クールダウンは必要な人と感じる⇒座ることに固執しない。
- d ワーキングメモリが低い⇒意味理解は苦しい。文章はキーワードしか入らない。
（言われたことの半分しか理解できていない。⇒トラブルの元になることがある）
- e 処理速度が低い⇒頭の中で単語がバラバラになっている⇒適切に忍耐強く、繰り返し指導！
- f 自己肯定感の低さ⇒やり遂げたという経験不足⇒成功体験を積み上げていく。
- g 20分で1クールの指導が必要

オ ケース検討会を経ての指導・支援について

(ア) 実施内容

a 各教科や作業学習で、授業内容の設定時間を区切る等、短い時間で集中できるように工夫した。

(イ) 実施時期

a 11月より開始した。

(ウ) 記録の内容

カ 指導・支援中の様子②

(ア) 記録（文章、写真等）

a 自立活動

活動に参加できるのは20分程度である。その後の活動について再確認することで、クールダウンを挟まなくても活動を継続することができることもあった。継続して活動できたことを称賛することで自信につながり、次時の活動にもスムーズに参加できることがある。

b 国語

本時の学習内容を提示し、取り組むことで見通しをもって学習に参加している。15分から20分を目安におしゃべり等の時間を設定しながら学習を進めることで、時間いっぱい授業に参加することができている。

c 数学

毎時間、学習時間、タブレットを使用した学習時間、休憩時間と時間を決めて取り組みを続けている。授業中に立ち歩くことはだいぶ減った。

d 社会

最近では、遅刻や早退が目立つこともあり、欠課が増えている。クールダウン後は落ち着いて気持ちを切り替え、授業に集中できることが多い。

e 音楽

結果としては、鑑賞能力とドラムの技術が向上した。音楽の力が彼の個々の能力の発展に与える影響を示している。

具体的に鑑賞に関しては、バッハ、ベートーヴェン等の異なる作曲家（年代別5人の作曲家）の作品をピアノ単独の演奏で触れることで多様なスタイルや感性を少しは理解できたと思われる。

f 体育

本人の訴えにより、気持ちのコントロールを優先に授業の参加をしている。本人の「失敗」についての対処については、前向きな声掛けはもちろんのこと、気分転換の休憩か水分補給等を選択させ、気持ちが整ったときの参加を促している。

g 美術

作品制作には、概ね意欲的に取り組むことができるが、継続できる時間は20分程度である。10分～15分程度のクールダウンが入ると、席に戻って制作に再開することができるようになってきた。鑑賞の時間では、映像資料の視聴や教師の講義に耳を傾けることができ、30分～40分程度座って授業に参加することができるようになってきた。

h 作業学習

継続できる時間は、20分～30分である。時々時間の確認を行っている。時間になると休憩をとり、終了するとまた自分の決めた時間で作業を行っている。話をしないで作業を行うこととしているが、3クールめあたりからは話をしながらが多い。(20分あるいは30分を1クールとしている)変化はあまり見られないが、作業時間を意識できるようになってきている。

キ 指導・支援のまとめ②

(ア) 生徒の変容

- a 授業時間を意識して、学習に取り組めることができた。
- b 自分の今の気持ちを伝え、活動に参加できるようになった。

(イ) 成果

- a 短時間での学習設定の繰り返しにより、50分の授業の流れを見通して、学習に取り組むことが多くなった。
- b 少しずつであるが授業に参加する時間も増えた。

(ウ) 課題

a 授業内容を短い時間で区切り集中する時間を設定する等の工夫を行い、何分までと見通しを持ち授業へ参加できるようになってきたが、時計を気にして集中に欠けることも見られてきた。そこで次のような課題が出された。

1日の教科及び作業学習の授業で、クールダウンの回数を決めるなど集中する時間を伸ばしていく。

現状クールダウンの時間10分以上だが、5分程度にし、総合的に学習や作業時間を伸ばすようにする。

ク 今後の方向性

クールダウン等を利用しながら学習や行事等に参加してきた。50分の授業の中で集中して参加できる時間設定をし取り組んだことで、少しずつではあるが、長い時間授業に参加できるようになった。今後は進路のことも考え、就労の活動時間を意識した活動を取り入れながら支援を行っていく必要がある。

VI 研究全体を通じた成果と課題

1 成果

- (1) Co-MaMeのアセスメントシートから生徒の実態を捉え、支援のイメージ図で支援配慮を具体的に検討し、職員間で共通理解することができた。
- (2) ケース検討会で、講師の先生に助言をいただき、生徒の実態をより詳しく知ることができ今後の指導・支援につなげることができた。
- (3) 日常生活の中で、説明や問題の提示の仕方等において視覚的な支援が有効であることもわかった。

2 課題

- (1) 落ち着いた状態で学習に取り組めるよう、家庭と連携をとり、職員間での情報を共有しながら環境を整えていきたい。
- (2) 話を聞く際に、話の内容をキーワードで捉えているため、話を理解するのが難しい。話す場合は、短くわかりやすい言葉で伝え、最後に確認が必要である。
- (3) 自分で何かをやり遂げたという経験が不足しているので、小さい成功体験の積み重ねを行っていくことを増やしていきたい。